

第 40 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議議事録

日時： 2014 年 3 月 27 日 (木) 12:15～12:45

場所： 東京都市大学 世田谷キャンパス H 会場

議事内容

1. 長尾部会長挨拶

2. 平成 25 年度バックエンド部会賞

平成 25 年度部会賞受賞者は運営小委員会での選考を経て以下の方々に決定したことを報告するとともに、表彰楯の授与を行った。

第 25 年度バックエンド部会賞 受賞者一覧

功績賞

田中 知 殿(東京大学)

表彰理由：

- ・放射性廃棄物処分関係の研究分野において、長年にわたり先進的な研究成果を国内外に発信し、顕著な業績が評価される。
- ・日本原子力学会会長、同学会放射性廃棄物部会(現バックエンド部会)部会長、原子力委員会等の国や研究機関委員会で主査要職を歴任し、各課題審議を主導されている。
- ・東京大学において、放射性廃棄物等の原子力分野で多くの優秀な人材を育成し、学術・産業の両面における顕著な貢献をされている。

業績賞

該当者なし

奨励賞

澤口 拓磨 殿(日本原子力研究開発機構)

表彰理由：

- ・放射性廃棄物処分システムにおいて長期的な性能評価上重要となるベントナイトの変質について取り組んでいる。
- ・特に、試験や解析が困難とされる圧縮状態のベントナイト変質に意欲的に取り組むとともに、その溶解挙動解明への道筋が示されつつあり、今後の研究の進展が期待される。
- ・また、本研究成果はバックエンド部会誌に投稿され公開に至っており、積極的な研究成果公開の意識がうかがえる。

山口 正秋 殿(日本原子力研究開発機構)

表彰理由：

- ・喫緊の課題となっている福島第一事故後の放射性物質分布評価について、土砂移動に着目した放射性物質分布の解析手法開発に取り組んでいる。
- ・本手法は、既に観測結果と整合性をとれる分布解析結果を得られる段階にあるとともに、パラメー

タ検証や解析モジュールの追加によって定量性のある評価が可能となる見通しがつきつつあり、今後の研究の進展が期待される。

- また、本研究成果はバックエンド部会誌に投稿され公開に至っており、積極的な研究成果公開の意識がうかがえる。

優秀講演賞

齊藤 拓巳 殿(東京大学)(現・日本原子力研究開発機構)

表彰理由:

2013 年春の年会の口頭発表 A11「深部地下水中の腐植物質の錯生成能と化学構造」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

千田 太詩 殿(東北大学)

表彰理由:

2013 年秋の大会の口頭発表 O33「福島原発事故で発生した廃棄物の合理的な処理・処分システム構築に向けた基盤研究(8)高塩分冠水環境におけるカルシウムシリケート水和物の安定性に関する検討」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

福田 達弥 殿(東京工業大学)

表彰理由:

2013 年秋の大会の口頭発表 P37「ガラス固化プロセス高度化研究(6)模擬高レベル廃液に含まれる主要硝酸塩の熱分解反応速度解析」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。



受賞者記念撮影(東大田中先生は都合により欠席。左端は長尾部会長)

3. 平成 25 年度活動報告

3.1 企画報告

3.1.1 企画 A

①大会・年会における企画セッション関係

・2013 年秋の大会

バックエンド部会企画セッションはクリーンアップ分科会と共催で、「福島第一原子力発電所事故に

起因する環境修復の進展に向けて」として開催したことを報告した。プログラムの概要は以下の通り。

<p>・9月4日(水)13:00-14:30 八戸工業大学 N会場 座長:(東海大学)大江 俊昭 講演(1) 環境修復活動における実践と課題:(東北大学)佐藤 修彰 講演(2) 環境修復技術の現状と今後の課題:(JAEA)田川 明広 総合討論:講演者, コメンテーター((東芝)藤田 玲子, (JAEA)中山 真一)</p>
--

・2014年春の大会

2014年3月26日(水)にフランス原子力学会 SFENと合同セッション「“Waste Management”(フランス原子力学会放射性廃棄物管理技術部会合同セッション)」を開催したことを報告した。プログラムの概要は以下の通り。

<p>・3月26日(水)12:30-14:25 東京都市大学世田谷キャンパス H会場 座長:長尾部会長</p>
<p>(1) The nuclear waste management system in France Richard POISSON (ANDRA)</p>
<p>(2) The nuclear waste management system in Japan Hiromi TANABE (RWMC)</p>
<p>(3) The role and the objectives of the Atomic Energy Commission in the French Nuclear Waste Management organization Thierry ADVOCAT (CEA)</p>
<p>(4) Research and Development for HLW disposal in Japan</p>
<p>①R&D for waste disposal in Japan - Where do we stand? Hiroyuki UMEKI (JAEA)</p>
<p>②Recent technical activities of NUMO: Reconfirmation of technical reliability after the March 2011 Great East Japan earthquake Hiroshi FUJIHARA (NUMO)</p>

・2014年秋の大会

2014年秋の大会(会期:2014年9月8日(月)~10日(水)場所:京都大学吉田キャンパス)における企画セッションの企画案を4月4日(金)まで募集中であることをアナウンスした。

②プログラム編成

2014年春の年会のプログラム編成について、以下の編成委員のご尽力を得て行ったことを報告した。

コード	専門分野	WGリーダー	WGメンバー
405-1	放射性廃棄物処理	目黒義弘(JAEA)	稲垣八穂広(九州大学) 斉藤拓巳(東京大学)
405-2	放射性廃棄物処分と環境	藤井直樹 (原環センター)	稲垣学(NUMO) 稲垣八穂広(九州大学) 斉藤拓巳(東京大学) 三枝博光(JAEA) 野下健司(日立) 目黒義弘(JAEA)
405-3	原子力施設の廃止措置技術	北村高一(JAEA)	田中宏和(三菱マテリアル)

③国際会議関係, その他

・EAFORM (East Asia Forum On Rad-waste Management)

東アジア諸国の放射性廃棄物管理の関連組織間での協力促進のための国際会議である, EAFORMは第4回大会が2013年10月14日(月)~16日(水)の日程で北京において開催された。講演再録を部会誌に掲載予定。台湾→日本→韓国→中国で持ち回りであり, 次回は2015年に台湾で開催予定。

・学会英文誌創刊50周年記念 海外研究者レビュー論文の執筆者推薦

学会編集委員会より各部会に執筆者推薦の依頼があった件について, スイス Nagra の Dr. Vomvoris を推薦したことを報告した。

・原子力学会フェローの推薦

原子力学会フェローのバックエンド部会からの推薦について, 田辺博三氏(原環センター)を推薦し, その結果認定されたことを報告した。

・学会誌アトモスへの“バックエンド連載講座”の企画運営

前回の連載講座から約10年が経過し, 多くの技術的進展がみられ, さらに3.11を背景にバックエンドを取り巻く環境も変わりつつあることから, わかりやすい連載記事を企画すること, 及び2014年9月号から8回シリーズでの連載開始を希望とし, 以下の内容で運営委員のコーディネートにより執筆中であることを報告した。

- (1) 放射性廃棄物の概要
- (2) 放射性廃棄物の管理
- (3) 原子力施設の廃止措置
- (4) 放射性廃棄物の処理
- (5) 放射性廃棄物の処分
- (6) 我が国の地質環境
- (7) 地層処分システムの安全評価
- (8) 将来展望

・インド原子力学会との協力

2013年9月6日に協定締結されたことを受け, 今後協力テーマ等について具体的に検討することを報告した。

・学会和文誌への投稿依頼

学会から学会和文誌への投稿依頼があったことを報告した。短期間で掲載(早ければ1カ月で電子版), Elsevier Scopus に収録, J-Stage で公開されるとのこと。

3.1.2 企画 B

第30回バックエンド夏期セミナーの予定について報告した。

➤ 日時:2013年8月6日(水)~8月7日(木)

場所:福島県郡山市 ビッグパレットふくしま中会議室 B

・福島事故対応関連及び従来のバックエンド分野のテーマなどを取り上げる予定であること, 及び今後プログラムの詳細検討予定であることを報告した。

3.1.3 企画 C

日本地質学会と共催で、日本地質学会レギュラーセッション「原子力と地質科学」を開催したことについて報告した。概要は以下の通り。

会合名	日本地質学会第 120 年学術大会（仙台大会） レギュラーセッション「原子力と地質科学」
主催者名	日本地質学会
開催日	平成 25 年 9 月 14 日～16 日
開催場所	東北大学（川内北キャンパスほか）
ご担当者	吉田英一 名古屋大学博物館資料基盤研究系 大学院環境学研究科兼任（環境地質学専攻）

3.2 広報報告

部会 HP 小委員会活動，説明員登録制度ワーキンググループ，H25 年度週末基礎講座の予告について報告した。

① H25 年度 部会 HP 小委員会活動について

(1) 部会ホームページの管理・運用 (<http://www.nuce-aesj.org/>)

- ・お知らせ・会議案内 による情報発信
- ・部会誌「原子力バックエンド研究」記事・論文等の先行公開，バックナンバーの公開
- ・週末基礎講座・夏期セミナーのプレゼンテーション資料の掲載
- ・部会表彰:過去の受賞者リストの整備、公開 等

(2) バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績：H25 年度 35 件(4/1～3/14)， 配信先：525 名(3/14 現在)

お知らせ:メール配信ご希望の方，アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせ願いたい。メールの配信開始/停止，アドレスの変更は部会員からの申告によって行います。配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。メール配信ご希望の方，アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせください。

e-mail： info@nuce-aesj.org（部会ホームページをご覧ください）

(3) ホームページ小委員会メンバーの紹介

② H25 年度週末基礎講座報告

平成 25 年度の週末基礎講座の開催実績について報告した。

日程:H25.10.26(土) 13:30-18:00:H25.10.27(日)9:00-16:00

場所:石川四高記念文化交流館 会議室(石川県金沢市)

参加人数:計 29 名(学生:15 名, 社会人:8 名, 講師:6 名, 事務局:3 名)

講座名	講師
低レベル廃棄物に相当する放射能汚染物の最終処分において安全確保をどう考えるか	大江俊昭（東海大学）
福島環境修復に伴って発生する廃棄物等の管理・取り扱いの現状と課題	吉原恒一（原安進）
低レベル放射性廃棄物の余裕深度処分に関する検討状況	大石英希（日本原燃）
地層処分事業の考え方と進め方	加来謙一（原環機構）
地層処分と資質環境の長期安定性	梅田浩司（原子力機構）
地層処分の安全性を評価するための取り組みと核種移行研究の例	北村暁（原子力機構）
バックエンド対策を進めるために必要なものは何か	グループディスカッション

3.3 出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」、J-STAGE におけるオンライン公開、部会誌への投稿原稿の形式指定、部会員の皆様へのお願いについて報告した。

①部会誌「原子力バックエンド研究」

- ・Vol.20 No.1(2013年6月 Web 公開)
- ・Vol.20 No.2(2013年12月 Web 公開)
- ・CD-ROM 発行:No.1,2 合併号・2014年3月, 発行数:760部

②J-STAGE におけるオンライン公開

- ・公開中:Vol.9-1～Vol.20:80件 (研究論文, 技術報告, 総論等)
- ・今後も新規論文およびアーカイブ登録作業を鋭意継続し充実を図ります

③投稿・査読ご協力のお願い

- ・部会員のための部会誌継続のために引続き積極的な投稿/寄稿, 査読への御協力をお願い致します!

3.4 庶務報告

海外発表助成制度、及び研究会支援制度の状況について報告した。

①海外発表助成制度

- ・平成25年度実績
 - 上期分(2月10日締切) 応募なし
 - 下期分(8月10日締切) 応募2件
 - 東京大学大学院博士課程3年(MIGRATION 2013 英国)
 - 東京大学大学院修士課程1年(MIGRATION 2013 英国)
- 25年度下期分の応募2件について助成を実施した。

②研究会支援制度

- ・平成25年度実績
 - 平成25年度は応募なし

3.5 会計報告

平成 25 年度会計報告

2013 年度本部予算:

- ・「海外発表助成」(270,000 円)を実施。当初本部経費に予算計上していなかったため、「予算外申請」を行った。但し、本部経費分の「旅費交通費支出」が予算の1/3程度の支出であったため、勘定科目間のやり繰りで本部経費は予算内に収めることができた。

2013 年度部門予算:

- ・部門経費の収入(事業活動収入) (「参加費 収入」(夏季セミナー, 週末基礎講座)「掲載料収入」、「印刷収入」)は計画していた収入の 87%程度(約 13%不足)であった。
- ・部門経費の支出は、勘定科目間で凸凹があるが、計画していた支出の 88%程度(約 12%減額)であった。
- ・通常及びセミナー予算を合わせると、バックエンド部会として昨年度の支出はほぼ均衡。

平成 26 年度予算

2014 年度 本部予算:

- ・「海外発表助成」(270,000 円)を予算計上。
- ・他の支出は、2013 年度の実績を反映。
- ・本部予算は収支尻が「マイナス」であるが、部門予算の収支尻で補填し繰越金からの補填はしない。

2014 年度 部門予算:

<収入>

- ・収入(参加費+その他)を 2013 年度の実績に合わせて 1,900,000 円とした(減額)。

<支出>

- ・支出は科目毎に 2013 年度の実績を反映(減額)。
- ・部門予算の収支尻で 270,000 円の余剰、本部予算の収支尻 -270,000 円を補填する。

3.6 選挙管理委員会報告

平成 26 年度 運営委員改選選挙結果を以下のように報告した。

○バックエンド部会員総数:680 名

○投票数:334 名(49.1%)

○投票結果(敬称略)

		信任	不信任
部会長	塚本 政樹(電力中央研究所)	329	5
副部会長	新堀 雄一(東北大学)	329	5
運営委員	金子 昌章(東芝)	329	5
	小林 伸司(清水建設)	326	8
	澁谷 早苗(原子力発電環境整備機構)	328	6
	千葉 保(日揮)	327	7
	都筑 康男(原子力安全推進協会)	326	8
	中田 弘太郎(電力中央研究所)	325	9

以上の全員が信任された。

以上